

学会参加報告書

R21-053 鳴海 汰一

学会名：日本薬学会第 144 年会

日時：2024 年 3 月 29 日～ 31 日

1. 参加した目的

私は放射線技師を養成する学校に在籍しているため、どうしてもその分野に知識が偏る。医療従事者となるため、臨床で役立つ様々な知識や経験を少しでも吸収したいと考えていた。そこで今回、普段は参加できない薬剤師や研究者向けの学会に学会参加奨励金制度利用して参加させていただいた。

2. 学会会場における様子（発表や展示会等）

多くの企業が展示ブースで商品を持ち込み、実演しているところを見ることができた。株式会社島津製作所のブースでは最新の高速クロマトグラフ、質量分析計、腸内細菌共培養デバイスなどの展示あり、低分子化合物から高分子化合物の分子量を測ることができる LCMS-9050 を間近で見ることができた。また、偶然ノーベル賞を受賞された田中耕一先生にお会いすることもできた。その他には、湯山製作所の薬剤師以外の方向けに販売されている取り間違いや数量間違いが防止できる自動薬剤ピッキング装置「DrugStation」という装置を担当者さんに紹介していただいた。東京理化機械株式会社では粘着性をもったシート（本来は固定具が必要）と合わせて、大きな三角フラスコでも倒れず振盪することができる恒温振盪機「MMI-1000A」を拝見した。また、凍結・噴霧乾燥機では、食品に多く用いられているフリーズドライの方法と比較して本装置の特徴について学ぶことができた。

ポスター発表では、大学から企業まで多くのポスターが展示されており、ポスターの発表者が内容の説明を行ってくれた。題材は幅広く、コロナ関連や治療薬、化粧品や健康食品、放射性医薬品についてなど多種多様であった。屋木先生も F-18 に関する研究内容をポスター発表されていた。

3. 今回の学会に参加して得られたこと（今後活かしていきたいことなど）

初めての学会参加というものを体験し、学会というものの雰囲気を感じることができた。また、普段の講義では触れることができない治療薬のことや造る・検定を助けるソフトウェアなど多くのことを学ぶことができた。今後も私の専門に捉われず、様々な分野の知識に触れ、吸収したいと強く思うきっかけとなった。

4. 学会参加の感想

最初は、薬学のことなど何もわからない人が行っても興味を持つことが難しい学会ではないかというイメージを持って、会場に足を運んだが、学校で勉強している薬剤についての発表や意外に興味を惹かれる内容の発表が多く、とても楽しい印象で終わることができた。

特別講演では、免疫学のスペシャリストである坂口志文先生による過剰な免疫反応を抑える制御性 T 細胞の講演を聞くことができ、とても満足した。